

前　鬼　漫　錄

村瀬吉雄

近く國立公園として指定を期待されて居る吉野、熊野地方の著しき特徴は、我が大和民族史上に於いて重要な地位を占める點にある。それは此地が古來我國文化の中心に近くして然も隔絶せる山嶽地帯であつたが爲に、或は新興宗教の播籃となり、或は勤王志士の隱家となり、別しては恐れ多くも南朝のおいたはしき數々の事蹟を留むるからである。今回架換られた前鬼橋の名稱に就ても尙若干の興味は繋がれ得るであらう。

投の小角

舒明天皇六年甲午春正月朔日を以て大和國葛上郡茅原ノ郷に生まれた役の小角は、生來容貌魁梧形骸頗る世人と異

り、三、四歳の頃より歩行するに雨露衣を浸さず、足に生虫を踏む事が無かつた。七歳の時より不動明王の眞言慈救の咒を誦し常に五辛酒肉の類を食はず小兒を友とせず、母の兄願行に就いて學習するに一回にして之を記憶したと云ふ。又學ばずして自ら密乗を感悟し、十三四歳の頃より孔雀明王の咒を誦し、常に鄉人と交る事無く十七歳の時遂に家を出でゝ葛城金剛の二山に登つた。此時より彼の本格的修行は始つたのであつて、藤の皮を以て纏りたる薄き一重の衣を纏ひ、松葉の露に命をつなぎ備さに難行苦行を重ねた。更に轉じて熊野三山を練行し、天智天皇の六年、三十四歳にして大峯山を踏み開き、三十六歳にして攝津國箕面山に入り、親しく龍樹菩薩に逢ひ祕密の大曼陀羅を傳授

せられ、歸つて之を大峯山に踏み布いた。斯くして後更に

諸國の高山靈場を鍊行し、遂に修行功を

て上天したのである。此時齡七十二後光格天皇の御時「神變大菩薩」の謚號を賜つた。役の小角は世に役の行者と謂はれ、その開ける山上の地は、祕法深甚の靈地として之を訪ひ詣づる者年々廿萬人に達する。修驗道と稱する宗教は

側

面

を

望

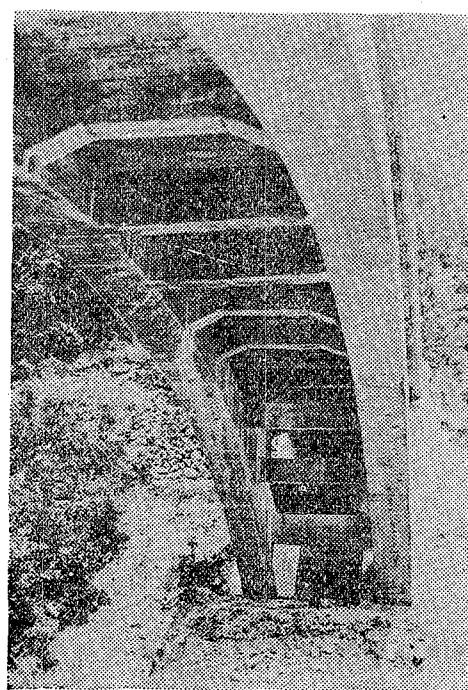
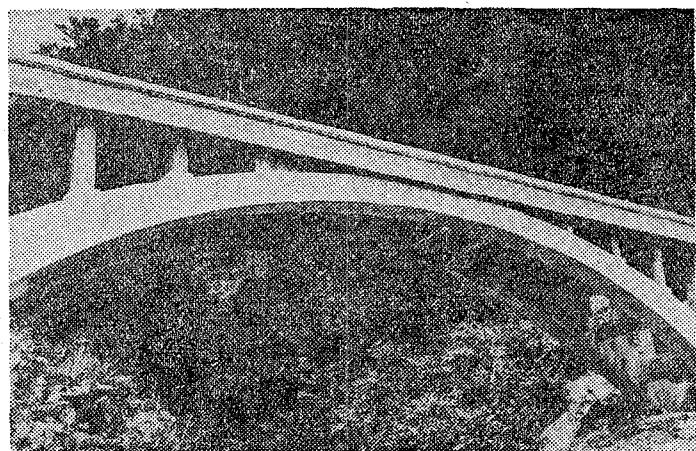
む

終へて大寶元

即ち之である。

年辛丑六月一

前鬼村



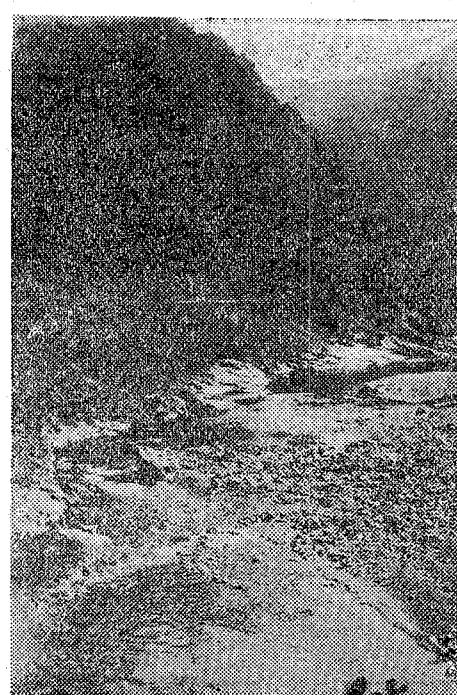
す示を造構側下見より下眞

日より十七日の間、結跏趺坐し、同七日の曉天紫雲に乘じ

吉野郡下北山村大字前鬼は俗に前鬼村とも謂はれる。前述役の小角が吉野金峯山を開拓し、釋典



む望を橋鬼前の中工施りよ橋舊



川山北の點地橋架橋鬼前

を講じ呪術を行ひ以て人を

に血統を尚び親子兄弟を選ばず婚姻をなし、爾來千貳百年絶対に他と交る事が無かつた。

現在では五戸の中三戸は他に移住し、僅に五鬼繼（森本

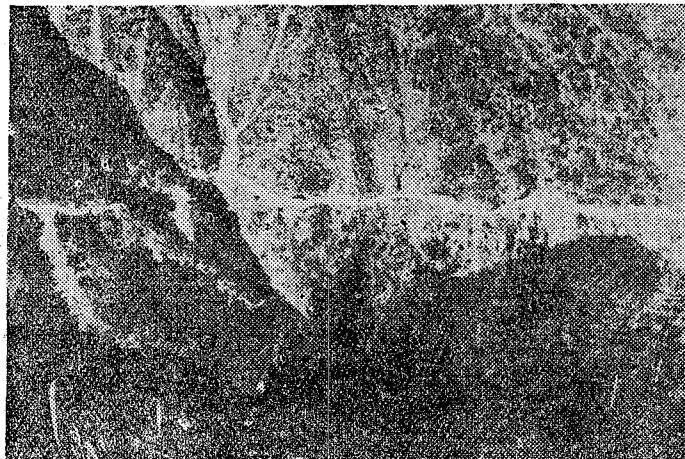
つた者に、義寛・義賢の夫婦があつた。此二人を前鬼、後鬼と稱し後遂に地名となつた。五人の子を、五鬼上・五鬼繼・五鬼肋・五鬼熊・五鬼童と稱し、五の精舍を建て、永く此地の守護となつたのである。此村の特徴として、極端

坊)五鬼肋(小仲坊)の二戸が茲に残つて居るのみである。

今小中坊は六拾代目、森本坊は五拾九代目であつて、斯くの如く血統が全然切れずに續いて居るのは我國の民間にも珍らしいと謂はれる。

前鬼川

大峯山脈南方の雄、前鬼村の北方に聳つ釋迦嶽に源を發し前鬼村の東方を曲流して上下兩北山村々界に於て北山川に注ぐのが、前鬼川である。一名佐田ノ川と云ひ、「一に池ノ郷・二に白川又・三に佐田ノ川」と謂はれ、池ノ郷・白川又川に次いで嶮阻な谷として知られて居る。



道野東熊

流水の清絶な事は恐らく他に類例を見ないであらう。兩岸の綠を寫す爲か、それとも特別の溶解鑛物質のある爲か、碧綠の澄明は都塵を洗ふに充分である。清流を選ぶアメノウヲ・ハビ等の相當大きいのが見られるのも嬉しい。人里遠く離れて居るせいか滑らかに苔の上を這ひ或は瀬に絞られて泡を喰む様を見つめると一種異様の感慨を覺ゆるのである。此地方一帶の名物である吉野杉を組んだ筏の勇壯な姿も男性的な土地に相應はしい。

前鬼橋

大和南部・面積に於て奈良縣の五六%を占める吉野郡は些の平地無く悉く巍々たる山嶽の連続である。即ち東部には大臺ヶ原連

峯西には高野・伯母子の兩山、而して中央には大和アルプ

スとして知られる大峯山脈を控へ、之等の間を北山・十津

川の兩川が糸餘曲折して南下する。地形斯の如くであるが

爲に、大和民族二千年の努力にも拘らず此地方を南北に縦

貫する道路は只二條に過ぎない。即ち北山川に沿ひたる東

熊野街道、及び十津川に沿ひたる西熊野街道が之である。

何れも徑は山腹を縫ひ清流に脚下を洗はれて幽邃豪壯を極

め國立公園の名に恥ぢないのであるが、此の中、東熊野街

道が前鬼川を横切る地點が即ち前鬼橋架橋點である。

舊木橋を永久橋に架換ふるに當り、河川横斷面が薬研狀

をなして深い渓谷を作れる事及兩岸が岩盤より成る點より

して、鐵筋コンクリート拱が最も適當なるべきは衆目の一

致する所であつた。簡素にして雄健なる男性美は設計の根

本條件であつたが、出來上つたものを見れば内心甚だ忸怩

たるものがある。此の秀麗なる史蹟と風景を害ふ事が無かつたかを恐るゝ者である。が然し昔の東熊野街道にも文明

進化が訪づれる事になつた。

前鬼橋工事概要

一、路線名　府縣道上市木ノ本線

二、所 在　奈良縣吉野郡上下北山村界

三、橋 格　群集荷重五〇〇噸／平米

自動車荷重　六噸

三、工 期　自昭和八年六月

至昭和九年二月

四、橋 種　鐵筋コンクリート開側拱（分離拱環）

五、橋 長　四四・〇米（内拱三〇・〇米）

六、幅 員　有効四・五米全幅五・〇米

七、高 路面より河底迄十三・〇米

八、工 費　大約一七・〇〇〇圓（約平米當七十九圓）

附 記　故實は主として吉野郡史料及び中川秀次氏著大峰山

脈より學んだので詳しくは同書を参考されん事を申

添へて置く。